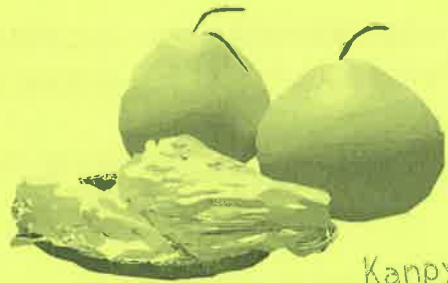


# 吹奏太郎



Uguisu



Kanpyo



Shimotsuke



Grim no Mori



Yakushi-ji



Mikoshi

## 目 次

★巻頭言 .....	1	
「石塚武男先生を偲んで」		
栃木県吹奏楽連盟理事長 三橋 英之		
★ 1 第 29 回東関東吹奏楽コンクールに参加しての感想 .....	2	
中学校の部 A 部門	高根沢町立阿久津中学校	顧問 野本 宏美
		川島 航
高等学校の部 A 部門	栃木県立宇都宮中央女子・宇都宮中央高等学校	部長 大槻 千織
★ 2 第 29 回東関東マーチングコンテストに参加しての感想 .....	3	
高等学校の部 B 部門	栃木県立宇都宮南高等学校	部長 米山 日菜
★ 3 第 42 回全日本小学生バンドフェスティバルに参加しての感想 .....	3	
	高根沢町立阿久津小学校	部長 渡邊 駿
★ 4 第 23 回東日本学校吹奏楽大会に参加しての感想 .....	4	
中学校部門	真岡市立真岡東中学校	顧問 小森 達彰
高等学校部門	栃木県立真岡高等学校	部長 林 大地
	//	顧問 梅原 愛子
★ 5 第 29 回東関東アンサンブルコンテストに参加しての感想 .....	6	
小学生部門	益子町立益子小学校	部長 薄根 史奈
中学校部門	宇都宮大学共同教育学部附属中学校	
	寺内 杏里/東 志帆/三宅 桂	
高等学校部門	栃木県立宇都宮北高等学校	顧問 宮田 麻子
//	栃木県立石橋高等学校	部長 久保田くらら
★編集後記 .....	8	
	栃木県吹奏楽連盟広報部 今泉 剛	

## 「石塚武男先生を偲んで」

栃木県吹奏楽連盟理事長 三橋 英之

石塚武男先生は1964年4月に作新学院高等学校に奉職し、英語科教諭・吹奏楽部顧問として43年の長きに渡って熱心に指導にあたってられました。先生は作新学院高等学校吹奏楽部の第3期生で、トロンボーン奏者として活躍しました。1958年に硬式野球部が初めて甲子園に出場した際にアルプススタンドで応援演奏しました。吹奏楽部の草創期を知る一人として、OB会でも大変お世話になりました。また、何と云っても栃木県吹奏楽連盟の理事長を永年務め、同時に東関東吹奏楽連盟理事長や全日本吹奏楽連盟理事を歴任し、吹奏楽の普及や吹奏楽連盟発展のために尽力され、栃木県の吹奏楽が活性化するために大きく貢献してきました。

私は作新学院高等学校に入学したことで、先生に出会うことになりました。運動部に入部しようとしていた私を当時のブラスバンド部へと導いてくださったのが先生であり、その結果として現在の私があるといっても良いでしょう。中学生までの私を知る友人や先生方には、吹奏楽の世界にどっぷりと浸かってしまった私の姿を見て、意外だったと驚かれたものです。

まさに先生との縁がなければ現在の私はありません。吹奏楽活動は私にとって生きがいになり、いずれ作新学院高等学校吹奏楽部を全国区のバンドに育てあげたいと強く抱き、母校の教員となり、先生のサポートを受け、何とか現在のようなバンドに成長することができました。

普段の先生は、とても穏やかで親身になって生徒たちと関わってくれました。練習後には自宅で、奥様の明子先生とお二人で毎日のように部員たちの英語の勉強に付き合っていました。とりわけ試験前には大勢の部員が訪れ、試験対策をしてくださいました。

正月や卒業式などの節目にも部員を自宅に招くなど気さくな人柄で、おいしいごちそうを振る舞っていただきました。とても面倒見の良い心から尊敬できる先生でした。

先生が団長を務めていた宇都宮市民吹奏楽団に私が所属していた時にも大変お世話になりました。宇都宮市の姉妹都市であるニュージーランドのマヌカウ市にも一緒に演奏旅行に出かけ、現地の方々と友好を深めることができたことも良い思い出となりました。おかげで外国にも親しい友人ができました。また、作新学院高等学校吹奏楽部でもニュージーランドのマヌカウ市に3度、アメリカのミネソタ州とアイオワ州に2度演奏旅行に行きました。先生の人脈のおかげで、ホームステイや演奏会場の手配など現地ではスムーズなスケジュールで演奏旅行をやり遂げられました。

さらに私はよく石塚家に出かけ、個人的にも家族ぐるみのつきあいをさせていただきました。その際には大好きな「アレ」を振る舞ってくれましたし、「戴いた物だけど」と言いながら、たくさんの「アレ」を土産に持たせてくれました。まるで家族の一員のようにかわいがっていただきました。おかげで先生の3人のお子さんたちとも親しく関わらせていただいたばかりか、先生のご兄弟の方々とも仲良くさせていただきました。まるで先生の兄弟の末っ子のような存在になりました。また、時には先生は厳しく私に助言を下さるなど、まるで私の親父のような存在でもありました。本当に感謝いたしております。

先日の通夜式や告別式では先生の訃報を聞きつけた先生を慕う大勢の卒業生が見送りに駆けつけてくれました。さながら、世代を超えた大規模な同窓会となり、いつまでも先生との思い出話が尽きることなく、遅くまで会場に和やかで賑やか声が響き、まさに先生のお人柄を表している式になりました。多くの教え子たちが先生との別れを惜しみ、先生との出会いに感謝している様子がよく伝わりました。



コンクールで私がメインのチームである青組で指揮棒を振るようになってからは、おもに下級生チームである白組を指導していただきました。コンクールの時期はどうしても青組の結果を出そうとするあまりに青組の指導が優先されることが多かったです。すると先生は白組の部員をがっかりさせないように懸命に面倒を見てくれました。温かみのある指導は当時の白組の部員にとっては、とてもありがたかったことと思います。

改めまして、これまでの先生の多大な功績に対しまして敬意を表するとともに、これまでいただいたご指導と温かい思い出をたくさんくださったことに対して、心より感謝申し上げます。先生と巡り会えて私たちは本当に幸せでした。今後は先生の意志を継ぎ、栃木県の吹奏楽活動がますます活性化し、吹奏楽連盟発展のために尽力し、これまで以上に吹奏楽人口が増えるように努力して参りたいと考えています。

結びに、今後の私たちの姿を温かく見守っていただければ幸いです。そして、何といたってもこれからどうか明子先生と仲むつまじく安らかに過ごしていただければと心から願っております。ありがとうございました。合掌。

## 1 第29回東関東吹奏楽コンクールに参加しての感想

令和5年9月 2日(土)・3日(日) 高等学校の部A部門・中学校の部A部門 会場：水戸市民会館  
9月 9日(土)・10日(日) 高等学校の部B部門・小学生の部 会場：君津市民文化ホール  
9月16日(土)・17日(日) 中学校の部B部門・職場・一般の部、大学の部 会場：よこすか芸術劇場

### 「今後も更に上を目指して」

高根沢町立阿久津中学校 顧問 野本 宏美

「響心動拍～ Perfect Harmony～」というスローガンのもと、阿久津中学校吹奏楽部は人の心を動かす演奏ができるように練習に励んできました。7月にできたばかりの水戸市民会館は木を基調とした開放感のあるホールで、演奏中も音の響きの広がりを感じることができました。各県の精鋭が集まる東関東大会は迫力のある演奏ばかりで、自分たちの演奏の課題に気づかされました。貴重な舞台に立つことができた経験を、次に繋げていけるように努力していきたいと思います。



高根沢町立阿久津中学校 川島 航

東関東大会は中学生になり2度目の参加でしたが、1年生の頃とは違う緊張感がありました。私は自由曲にソロがあり、絶対に上手くやってみせるという気持ちで臨みました。直前までとても緊張していましたが、演奏後はベストを尽くせた達成感や新しいホールで演奏できた嬉しさに溢れていました。結果は銀賞でしたが、自分たちの納得のいく演奏ができたと思います。今後も更に上を目指していけるように頑張りたいです。

### 「東関東吹奏楽コンクールに参加して」

栃木県立宇都宮中央女子・宇都宮中央高等学校  
2年 大槻 千織

私たちは、9月2日茨城県水戸市民会館で行われた東関東吹奏楽コンクールに出場しました。コンクー



ル予選通過を知ったのは演奏後学校に楽器を戻しているときでした。みんなで喜びを共有できたので強く印象に残っています。今までの日々の練習に加え、夏休みを迎えてからの夜遅くまで続くホール練習を思い出し、今までの自分の努力が身を結んだと安堵する反面、次の東関東に向けて気を引き締めました。

県外のホールで演奏する機会はなかなかなく、ホールがどんな環境か少し不安もありましたが、それ以上に初めての場所で演奏できることに対する期待が強かったです。予選での出来を超えるためにさらに磨きのかかった音楽をめざして、練習を積み重ねました。

本番当日、長いチューニングの後、ステージにのぼりました。初めての景色とこの日が遂に来たという気持ちから体がこわばりましたが、いつも通りを意識して演奏に臨みました。課題曲はずっと練習してきたハーモニーをよく聴き、引き込まれやすい曲の雰囲気を感じつつ冷静にハーモニーを仕上げていきました。自由曲は先輩たちのソロから始まる主題のメロディーを紡ぎ、不安になるような木管の連符から一転、一斉に鳥が羽ばたくような伸び伸びとした直管楽器の響きを感じながら、演奏が終わりました。二曲をやりきった達成感はありませんでしたが、正直自分の納得いかないミスが多々あり、あんなに練習したのにという悔しい思いもありました。それもふくめて、東関東は今の自分に活きるかけがえのない体験だったと思います。結果は銅賞。昨年と同じですが、演奏から得られた気持ちは違うものでした。

今までの努力に価値を確証づけるために、演奏後に感じられなかった完璧な達成感を得るために、そして滲み出る思いから聴いてくれた人に大きな衝撃をあたえられるように、これからも高みを目指して音楽に取り組んでいきます。



## 2 第29回東関東マーチングコンテストに参加しての感想

令和5年10月1日(日) 会場：成田高等学校大講堂

### 「想いをひとつに」

栃木県立宇都宮南高等学校吹奏楽部  
部長 3年 米山 日菜

私たちは今年度、吹奏楽コンクールとマーチングコンテスト共に県大会で金賞を受賞し東関東大会へ出場することを目標に活動してきました。東関東吹奏楽コンクールでは思い通りの結果を残せなかった悔しさがありました。同時に、私たち3年生にとって集大成であるこの東関東マーチングコンテストで最高の結果を残したいという想いで練習を重ねその日を迎えました。会場に到着し周りを見渡すと私たちの倍以上の部員数がある団体も多く、その雰囲気は圧倒されながらも「想いをひとつに」最高の演技をするという意識で、部員全員でステージに向かいました。ステージに行き最初のフォーメーションの立ち位置に着いたとき、部活動が本当に終わってしまうことを実感し、3年間の思いが込み上げてきました。他校との差はあっても自分たちのもつ最大限の力を練習通りに発揮することが出来たのはたしかです。私の吹奏楽人生においても、最後の夏は特に一生忘れることの出来ない財産になったと思います。楽しいことや嬉しいことばかりではなかったけれどとても濃い時間でした。沢山支えてくださった皆様、ありがとうございました。



### 3 第42回全日本小学生バンドフェスティバルに参加しての感想

令和5年11月18日(土) 会場：大阪城ホール

#### 「今までで最高の演奏」

高根沢町立阿久津小学校 6年 部長 渡邊 駿

僕達、阿久津小学校金管バンドは、全日本小学生バンドフェスティバルへの8大会連続出場を目標にして、春から秋まで練習に取り組んできました。

今年のテーマは、「Make you smile! 2023」。

ハッピーサマーウェディング、ツバメ、うっせえわ、千本桜の4曲メドレーです。ダンスや歌、衣装の早変わり、曲にあわせて動くタンバリン隊など、楽しく変化のある演奏演技が阿久津小のスタイルです。

今年は18人という少人数。初めて大会に出場する部員が4人もいたので不安な気持ちもありました。低学年の部員も多かったため、練習では主に動きを大きく見せる工夫や、全体の動きを合わせることをしてきました。東関東大会で金賞がとれて自信が付き、みんなで練習のモチベーションを上げていきました。

むかえた本番の日。バスの中で、全員で自分のパートを歌いました。最後の演奏だから、楽しく、悔いのないように演奏したいと強く思いました。そして、いよいよ本番。本番は一瞬でした。楽しくおもいきり演奏ができました。

待ちに待った結果は……銀賞! 全力での演奏できたからか、悔しい気持ちはありませんでした。嬉しさ、達成感で胸がいっぱいになりました。18人の部員全員で出場する最後の大会で最高の演奏ができました。

ここまでの結果が出せたのは、ご指導くださった鈴木先生、練習をサポートしてくださった先輩方、衣装や大道具・小道具の作成など、金管バンドの活動をサポートしてくれた保護者の皆様、応援してくださったすべての皆様のおかげだと思います。本当にありがとうございました。



### 4 第23回東日本学校吹奏楽大会に参加しての感想

令和5年10月7日(土) 中学校 会場：YCC 県民文化ホール (山梨県立県民文化ホール)  
10月8日(日) 小学生・高等学校

#### 「バーン!!!!」

真岡市立真岡東中学校吹奏楽部 顧問 小森 達彰

このタイトルの意味するところは、真岡東中学校吹奏楽部の特徴である「遠くまで届く、響きのある生きた音」…でもありますが、意外なところから聴こえてきた音もありました。それは、東日本大会に向けて移動するバスの中でのことでした。本番前日、山梨県に向かう高速道路上で、バスのタイヤがバーストしてしまったのです。幸い怪我などの大事には至りませんでしたが、代わりのタイヤが来るまで2時間以上の足止めを余儀なくされました。それだけではなく、練習会場まであと数十キロというところで事故渋滞に巻き込まれ、予定していた現地での前日練習の時間が、ほぼゼロになってしまったのです。さらに思い返してみると、7月末の県大会では体調不良者が続出し、22名中4名の欠場者が出てしまったこともありました。それでも何とか演奏の形になって金賞をいただくことができ、これを皮切りに、県代表選考会、東関東大会と歩みを進め、部員全員の悲願であった東日





本学校吹奏楽大会において金賞を受賞することができました。

私自身は今年度本校に異動してきたので、外から見て感じてきた、圧巻の「東中サウンド」の原動力がどこにあるのかが気になっていました。小学校での楽器経験者が多いこともありますが、今回の結果は、厳しい練習の積み重ねによる部員全員のたゆまぬ努力の成果であることは間違いありません。それに加え、どのような状況でも、どんな試練が待ち受けていても、常にその時のベストの演奏ができる「逆境に負けない精神力」や「本番での凄まじいほどの集中力」、これが真岡東中の真骨頂といえるのではないかと強く感じました。前日のハプニングもそうでしたが、東日本大会で棒を振り下ろした瞬間に、いつもとは違うホールの独特の響きに一瞬ヒヤッとしたものの、普段通りの演奏ができたことも、真岡東中の部員だからこそだと思います。堂々とした7分間のステージでした。

最後に、部員の頑張りを応援して下さった保護者、真岡東中関係者や吹奏楽仲間の皆様、またコンクールの運営にあたって下さった皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 「さらなる高みへ」

### 栃木県立真岡高等学校吹奏楽部 部長 林 大地

私たち真岡高校吹奏楽部は、4度目の東日本学校吹奏楽大会への出場を果たすことができました。東関東大会で3年連続金賞を受賞しながらも、あと一步先に進めなかった3年間から遂に18年ぶりの東日本代表に選ばれたことで、歴代のOBの先輩方、そして現役部員達の努力が報われたと感じ、感極まりました。

今年度の大会では「レッドライン・タンゴ」という曲を演奏しました。この曲は、変拍子の中で高い演奏技術とタンゴ特有の気だるさを出す表現力を必要とする高難易度なものであり、練習ではかなり悪戦苦闘しました。初め

は大会に間に合うのか不安でしたが、顧問の梅原先生と幹部を中心にひたむきに努力し続けました。

東関東大会後は、今までの反省を見つめ直すため、楽譜を新しくし、全員が改善すべき点を付箋に書き起こし、練習内容をより明確にしました。次の大会に向けて、勉強と部活の両立に加え、本校OB吹奏楽団の演奏会の出演もありましたが、男子校特有の根気強さで日々鍛錬を続けられる事ができました。

迎えた東日本学校吹奏楽大会では、緊迫した会場の雰囲気と他校の演奏のレベルの高さに圧倒されました。しかし私たちが届けられる最高の音楽を審査員にぶつけようと思いながら本番では音楽を心から楽しみ演奏することができました。練習の成果を十分に発揮できないところがあったことや銀賞という結果は悔しいものですが、それ以上に私は部全体が大きく成長できたと感じました。

私はかけがいのない仲間と共に音楽を奏で、部長として活動できたことを誇りに思います。後輩達には、顧問の梅原先生の熱心なご指導、ご支援とご協力してくださる皆様に感謝の気持ちを忘れず、更なる高みを目指してほしいと願っています。

## 「音楽の喜びを得るために」

### 栃木県立真岡高等学校吹奏楽部 顧問 梅原 愛子

「目指せ東日本」。4月に赴任してすぐ、朱色の毛筆で力強く書かれたその大きな目標は東関東大会すら未知の世界であった私にとってはとても重く、身が引き締まる思いでした。しかし、絶対に諦めずステージを重ねるごとに演奏を振り返り、改善点を話し合い、また次のステージに向けて前進していく部員のひたむきさに支えられ、半年間最後まで奮闘することができました。東関東大会の表彰式で彼らが雄叫びをあげ、人目もはばからずに号泣していた姿は一生忘れられません。



東日本大会に至るまでに演奏したステージはなんと9回。最後まで止まらないのだろうか心配になった初めての演奏会、この曲の魅力を引き出せるようになってきた東関東大会を経て、新たな課題と最後まで向き合って迎えた東日本大会。ラストステージは緊張や不安を超えた、エネルギーと高揚感溢れた演奏となりましたが結果は銀賞。指揮者としては、自らの未熟さを痛感するものとなりました。最後まで諦めずとことん曲に向き合うからこそ得られる音楽の本当の喜び、共に音楽を楽しみながらも冷静さをもって表現することの難しさ。大きな収穫と課題を持ち帰ることのできた東日本大会でした。

指導者としてコンクールに毎年出場する中で、なぜ金賞や上位大会を目指すのかと疑問に思うことがたびたびありました。とことん音楽を練り直しその曲の魅力を伝えられること、3年生までの部員たちが一番長い時間一緒に練習し、最高の思い出を得ること。今回東日本大会に出場して、それが私なりに出すことのできた答えです。来年度もまた、一生忘れられない宝物を得るために部員たちと毎日成長していきたいと思います。

日頃から支えてくださる保護者の皆様、長い歴史を紡ぎ、応援してくださるOBの皆様、きめ細かな指導をしてくださる講師の先生がたに心から感謝します。ありがとうございました。

## 5 第29回東関東アンサンブルコンテストに参加しての感想

令和6年1月27日(土) 小学生・高等学校・大学 会場：宇都宮市文化会館  
1月28日(日) 中学校・職場・一般

### 「金管プラスバンドに移行して一年、東関東アンサンブルコンテスト出場」

益子町立益子小学校 部長 薄根 史奈

今年度、益子小学校吹奏楽部は金管プラスバンドに移行しました。移行してすぐの時はまだ慣れない状況でみんな大変でした。顧問の松本先生、外部講師の田村先生をはじめたくさんの先生方に指導していただきました。最初は全員基礎から教えていただき、今まで自分が出来ていると思っていた所も細部まできちんとすればより美しい演奏になることを改めて実感しました。「いい演奏をする事も大切だけれど、自分達を支えてくれて見守ってくれる周りの人たちがいることを絶対に忘れてはいけない」と松本先生から教わりました。私達、部員一同は『元気』『勇氣』『笑顔』の3つを大切にしながら毎日練習に励みました。先生方や一緒に演奏している仲間たちが頑張っていると思うと私も更に頑張ることが出来ました。栃木県アンサンブルコンテストでは「金賞」を取ることが出来て東関東アンサンブルコンテストへの出場が決まり、その時はとても嬉しかったです。私は東関東大会に出場するのは初めてなので少し不安でしたが、みんなと一緒に頑張れると思いました。いよいよ東関東アンサンブルコンテストの日、みんなそろって参加して精一杯演奏する事が出来ました。表彰式の結果は「銀賞」で惜しくも金賞には届かなかったのですが、やり切った気持ちでいっぱいです。ここまで、仲間と一緒に演奏する事が出来たのは指導して下さった先生方や保護者のみなさん方のおかげです。これからも『感謝』の気持ちを忘れずに頑張っていきたいです。



### 「東関東アンサンブルコンテストから学んだこと」

宇都宮大学共同教育学部附属中学校吹奏楽部 寺内 杏里／東 志帆／三宅 桂

私たち宇大附属中学校木管三重奏は、10月下旬から練習を始めました。昨年、先輩方が同じ東関東の舞台上で活躍している姿から、自分たちも先輩たちのようになりたいと思い、出場しました。楽譜をいただいたと



きは、部を代表して出場する責任を感じましたが、覚悟を決めて取り組みました。井潤昌樹さん作曲の「詩曲Ⅱ」という曲は、今まで挑戦したことがない現代音楽で、譜読みに苦戦しました。まずは、スコアを見ながら音源を聞いたり、それぞれのパートの動きを耳に焼き付けたりして個人練習を進めていきました。そして、初めて3人で合わせたときには自分の演奏で精一杯になってしまい、課題が多いことに気が付きました。たった3人だけのアンサンブルのため、一人一人のフレーズ感、音程、音色など細かいところまで追求しなくてはなりません。自分たちなりの表現ができるように試行錯誤しながら、個々の技術、歌い方、音の重なり方、イメージなど様々なことを意識しながら曲を仕上げていきました。また、練習が進むにつれて、この曲の魅力にも惹かれていきました。

本番では大きな舞台上で堂々と演奏することができました。コンテストが終わり、振り返ってみると、私たちが練習してきた3か月間は本当に貴重なもので、当たり前なものではないことにも気が付きました。一緒に練習してきたメンバー、ご指導して下さる先生方、いつも支えて下さる保護者の方々、応援してくれた仲間がいたからこそその金賞だったと思います。東関東アンサンブルコンテストに出場して学んだことを生かして、これからも多くの方々への感謝の気持ちを大切にしながら部活動に取り組んでいきたいと思っています。



## 「東関東アンサンブルコンテストへ出演して」

栃木県立宇都宮北高等学校吹奏楽部 顧問 宮田 麻子

この度は第29回東関東アンサンブルコンテストに木管8重奏、打楽器3重奏の両グループが出演させていただき、ありがとうございました。県大会では両グループとも肩に力が入り思うような演奏に至らなかったようでしたので、生徒たちは金賞代表の発表を聞いたときは驚きとともに「キヤー」という嬉しい悲鳴をあげていました。もう一度ステージで演奏させていただけるチャンスに恵まれ「なんて幸せな人達だろう」と、私も感謝の気持ちでいっぱいになりました。

1月に入り練習を仕切り直し、ここからが苦しい上り坂です。楽曲の音符はすでに演奏できているため、アンサンブルの精度や音楽性をどのように高めていくのか、両グループとも悩みました。アンコンメンバーの何人かは同時にソロコンテストの準備もあり、時間がない中、できる限り皆で納得がいくまで楽曲と向き合い苦しい練習を重ねました。

そんな時に校内で壮行会を催していただき、全校生からメンバーに力強い応援をいただきました。両グループのリーダー2名は感謝の辞の中で、「東関東大会は周りのレベルが一層高いので、他校の皆さんの演奏にふれて今後の（演奏の）勉強に役立てたい。」と抱負を語っていました。

生徒が予期したとおり、東関東大会はハイレベルで素晴らしい演奏が続きました。高等学校部門と大学部門を拝聴しましたが、楽器の演奏技術、音楽性、アンサンブル力、パフォーマンス力、どれをとっても目を見張るグループばかりでした。お手本となる素晴らしいグループに共通するのは、やはり良い音色とバランスの良さ、音の方向性が明確で、一体となって音楽が伝わってきた点です。そしてその頂点には、本県の作新学院高等学校の



木管6重奏チームが金賞代表に輝きました!本当に素晴らしい演奏でした。全国大会出場、おめでとうございます。

本校はというと、感染症のため残念ながら大会本番は出演できないメンバーがでてしまったり、当日の朝に楽器のトラブルが起ったり、両グループとも波乱の大会となりました。しかし悔いの残ることなく精一杯ステージで演奏することが叶い、終わった後のメンバーの表情はとても晴れやかでした。補助員として楽器のサポートにあたった他の部員たちにも感謝です。この大会での切磋琢磨の過程で、生徒たちは楽器奏者としても、人間としても成長してくれました。今回の貴重な経験を次に生かせるよう、今後も生徒ともども頑張りたいと思います。最後に、大会の運営にご尽力くださいました吹奏楽連盟の皆様へ、改めて感謝申し上げます。

## 「第29回東関東アンサンブルコンテストに出場して」 栃木県立石橋高等学校吹奏楽部 部長 久保田 くら

私たち石橋高校吹奏楽部のクラリネット四重奏は、第29回東関東アンサンブルコンテストに出場させていただきました。昨年9月頃から練習を始め、校内オーディション、地区大会、県大会を経て、より良い演奏を目指して練習に励みました。今年は例年よりも新型コロナウイルスによる影響が少なく、多くの方の前で演奏することができ、大変嬉しく思います。

練習では、朝昼の時間を有効活用し、合わせと録音を繰り返していました。自分たちで考え、成長させていくことは簡単ではなく、試行錯誤の連続でしたが、顧問の先生や講師の先生のご指導があり、曲の完成度を高めることができました。

しかし、本番数日前から体調不良のため欠員が一人出てしまい、三人での出場となりました。四重奏の曲を三人で分担して演奏することの厳しさは想像に難くなく、演奏直前まで緊張と不安で押しつぶされそうでした。しかし「絶対に諦めたくない」という気持ちと、講師の先生の「自分たちの音楽を楽しむ」という言葉を胸に本番に挑みました。思うような演奏が出来なかった点もありますが、自分たちの持つ最大限の力を発揮し、音楽を純粋に楽しむことができました。その結果、銀賞を受賞することができ、とても嬉しかったです。

また、会場にて他校の演奏を聴き、そのレベルの高さに大きな刺激を受けました。今回の貴重な経験を今後の演奏に、そして来年度のコンクールに活かしていきたいです。

この約五か月、楽しいことばかりではなく、思い悩んだりくじけそうになったりしたこともありました。しかし今振り返ってみると、頑張ってきてよかったと心から思える一生の宝物です。応援して下さいました全ての方に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



## 編集後記

### 栃木県吹奏楽連盟広報部 今泉 剛

コロナ禍が明け、日常が戻りつつあるとともに、吹奏楽活動も大会の通常開催など、演奏の場面が戻ってきました。令和5年度は本県において、東関東選抜吹奏楽大会・バンドセッションや全日本吹奏楽コンクール職場・一般部門など、多くの事業が開催されました。参加またはスタッフとして携わった皆様の声をこの広報誌で広めるべきであるところ、係の不手際により年度末にまとめて発行することとなってしまったことをお詫びいたします。直近では、1月28日に行われた東関東アンサンブルコンテストにおいて、本県より2団体（作新高・宮の原中）が全日本アンサンブルコンテストに推薦されています。次年度号にて、ご参加の皆様のご感想などをお伝えする予定です。

《お願い》 原稿の執筆依頼が届きましたら、お忙しいとは思いますが是非お書きいただき、期限内にお送りくださいますようお願いいたします。

